

目に見えない障害を抱える人たちの生きやすい世界の創り方

三好 愛莉 田中 湖都 山口 未結 中野 朝日 羽田野 和
指導者：兵頭 禎憲 松岡 達則

【研究のキッカケ】

精神障害は見た目ではわからない、目に見えないこそ起こる差別・偏見が多いことから宇和島では正しい知識がどれだけ普及しているのか知りたいと思い、この研究題材にしました。

【仮説】

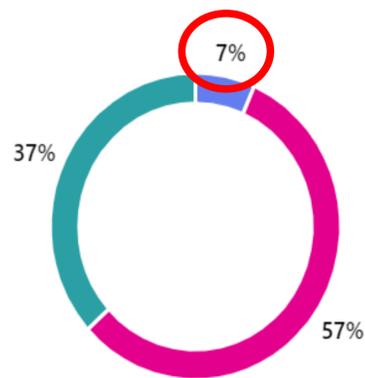
正しい知識を私たちが広めることによって差別や偏見を少なくすることができるのか

【研究方法】

- ・主に学生を対象としたアンケートの実施
- ・インターネットを活用した調査
- ・偏見や差別の動画を市内イベント等で配信

【アンケート調査】

まず宇和島東高校で生徒を対象にアンケート調査を実施



「今後差別がなくなるか」という校内アンケートで「はい」と答えた人は全体の7%でした。



「身の回りの人が精神障害になった場合どうするか」という校内アンケートでは「相手をそっとしておく」「何もしない」と答えた人が一定数いることがわかった。

【アンケート考察】

○「今後差別が無くなるか」で「はい」と答える人の割合を増やせないだろうか

○「身の回りの人が精神障害になった場合どうするか」で「自分が寄り添う」と答える人を増やすにはどうすべきか



【今後の計画】

- ・アンケートの実施、集計（市内小・中・高生対象）
- ・差別や偏見の減少を目的とした動画の作成
- ・R7年5月に行われる「SDGs甲子園」に動画を提出予定

【これからの目標】

動画や広報活動を通して正しい知識を広める活動をする